





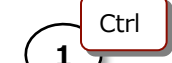
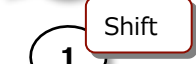

～外部参照編～

目次

外部参照ファイルを配置してみましょう

1. 図面上に参照ファイルを呼び出しましょう
 - 図面を開く
 - レイヤー作成
 - 参照ファイル呼び出し
 - 入力レイヤの指定
 - 参照ファイルの配置
 - 参照ファイル移動
2. レイヤー分解して参照ファイルのレイヤー状態を確認しましょう
 - レイヤー分解設定
 - 図面のレイヤー分解
3. 図面を保存しましょう
 - 名前を付けて保存

マウスの使い方

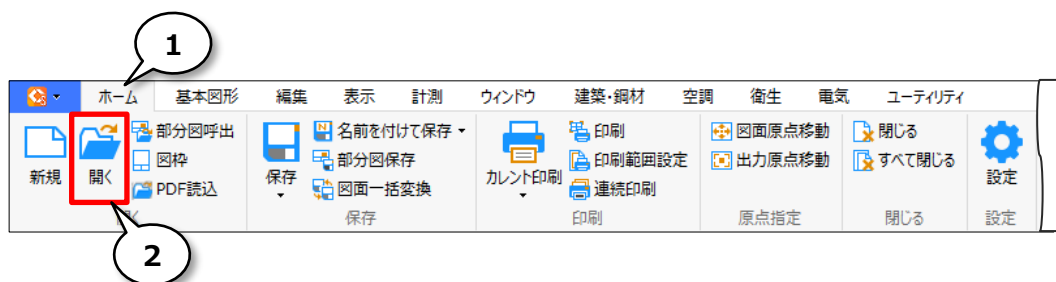
- | | |
|---|-------------------------------------|
|  | …指示位置をクリック (左クリック) します。 |
|  | …指示位置をマウス右ボタンでクリックします。 |
|  | …指示位置をダブルクリック (左2回クリック) します。 |
|  | …マウスを表示位置に近づけます。 |
|  | …[Ctrl]キーを押しながらクリック (左クリック) します。 |
|  | …[Shift]キーを押しながらクリック (左クリック) します。 |
| 
右ドラッグマウス移動 | …マウス右ボタンをクリックしたまま移動します。 |

1. 図面上に参照ファイルを読み出しましょう

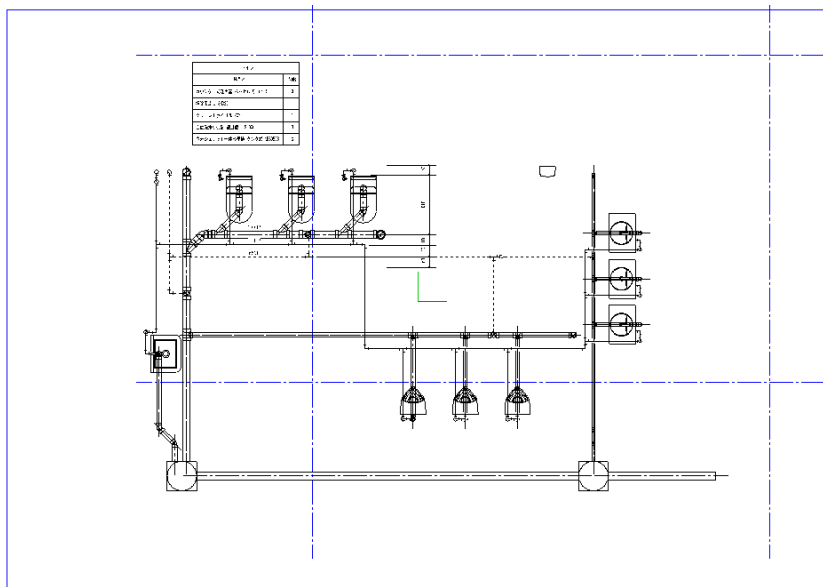
➤ 図面を開く

使用する図面は [Smart_70_B04_参照開始.ZDW]

リボンの「ホーム」から「開く」をクリックします。



ファイルを選択し、「開く」をクリックします。



➤ 参照ファイル呼び出し

使用する図面は [Smart_70_B04_参照建築図.DWG]

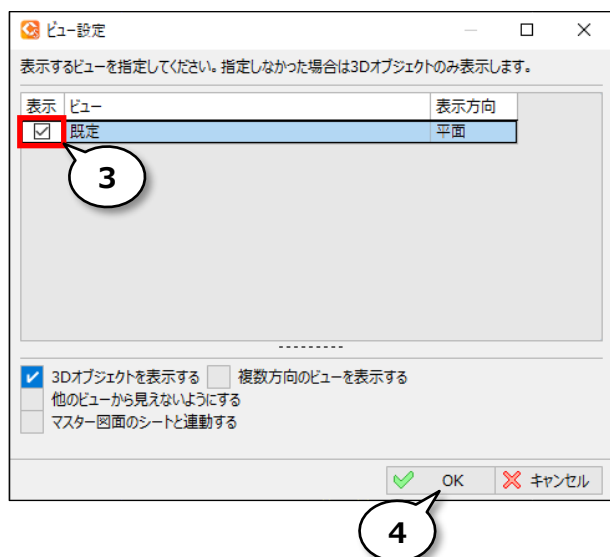
パネルの「図面・ビュー管理」から「参照ファイル」－「追加」ボタンをクリックします。



ファイルを選択し、「開く」をクリックします。



「ビュー設定」で既定ビューの「表示」をONにし、「OK」をクリックします。



➤ 参照ファイルの配置

入力レイヤーを指定します。

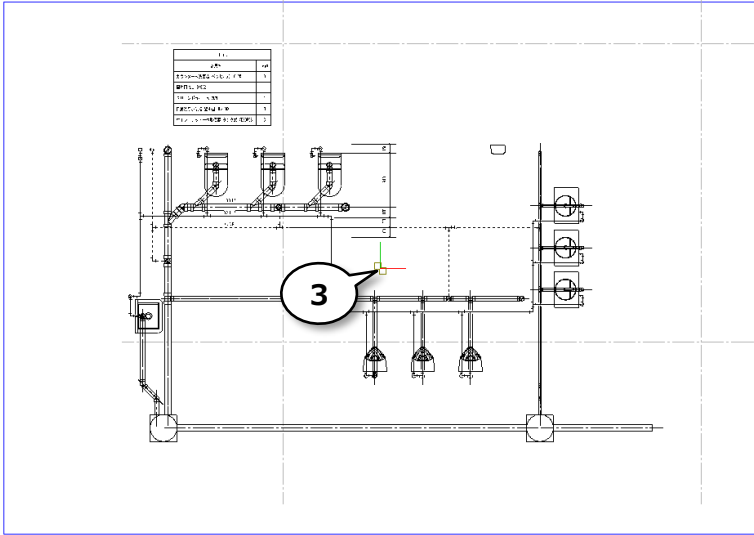


参照ファイルは、呼び出す際に選択していたレイヤーとシートに配置情報が置かれます。配置情報を置いたレイヤーもしくはシートが非表示に設定されると、参照ファイルも非表示になります。参照ファイルを配置する際は、作画オブジェクトと混在しないレイヤーやシートを選択しておきましょう。

「スナップ」の「ベクトル」「XYZ」をOFFにします。

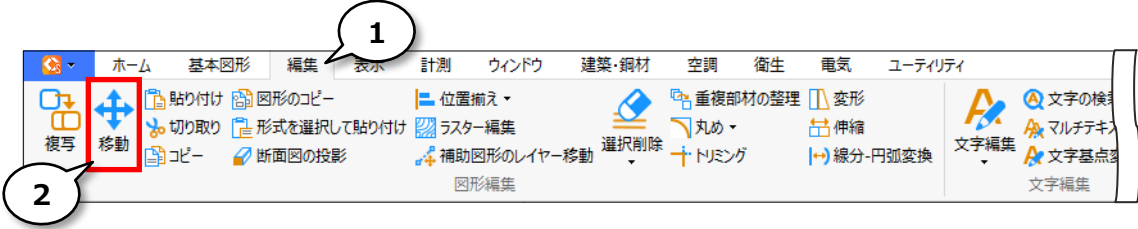


呼び出した参照図面の配置位置を指示します。

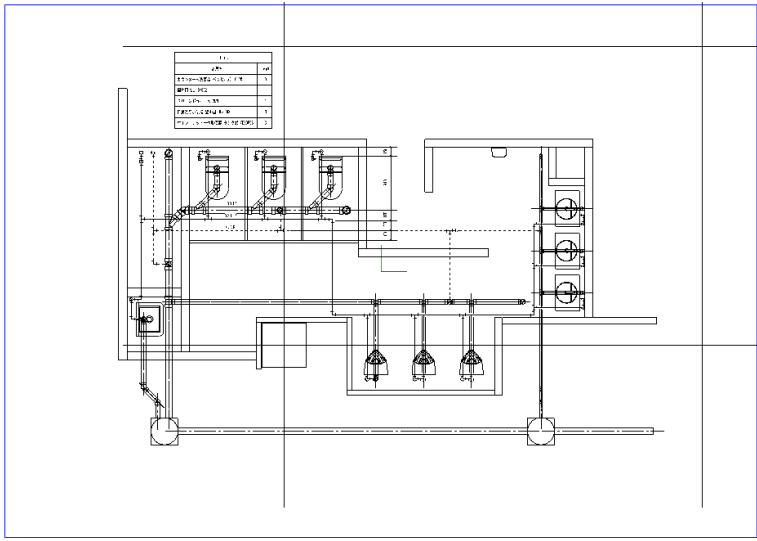
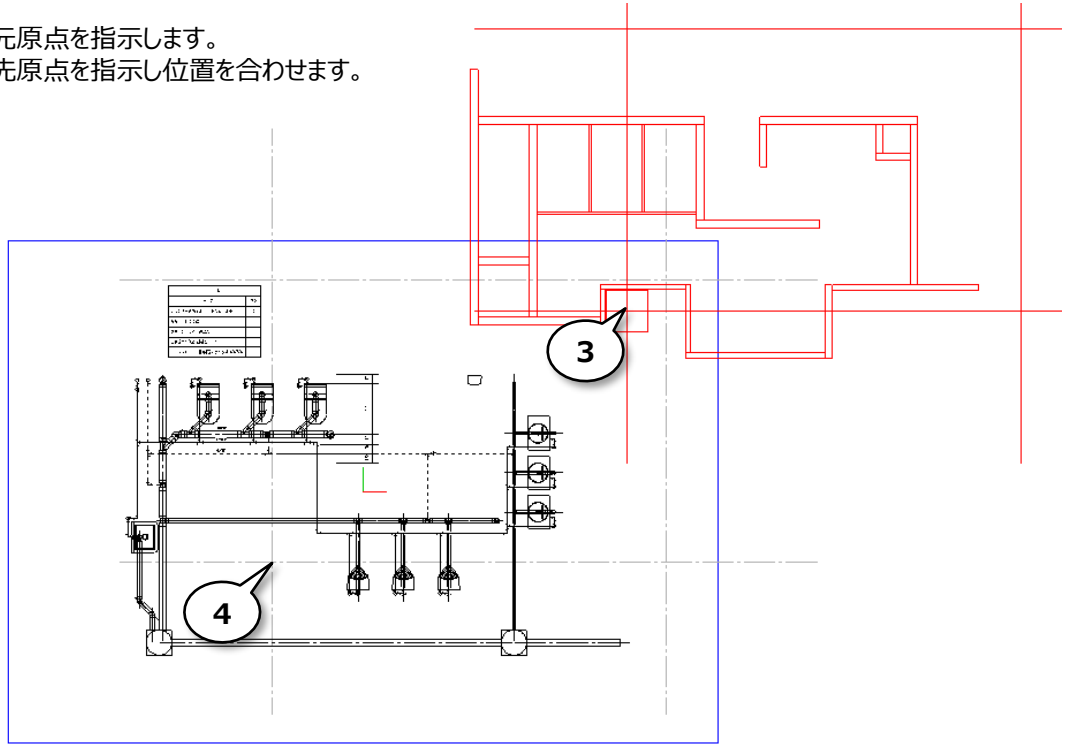


➤ 参照ファイル位置の移動

リボンの「編集」から「移動」をクリックします。

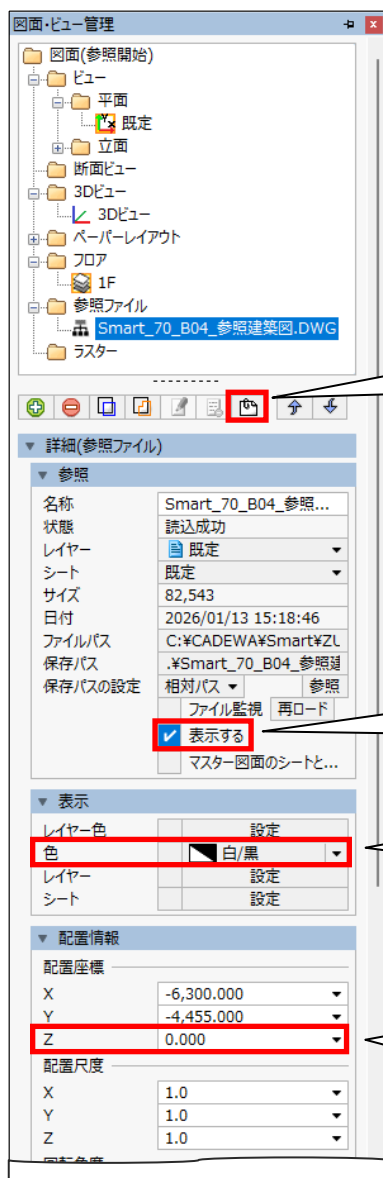


処理元原点を指示します。
処理先原点を指示し位置を合わせます。



補足 説明

「参照ファイル」情報の確認



「図面・ビュー管理」で参照しているファイルを選択すると、参照内容の確認と変更が行えます。

参照ファイルのオブジェクトを図面内に取り込むことができます。

参照ファイルの表示ON/OFFを指定できます。

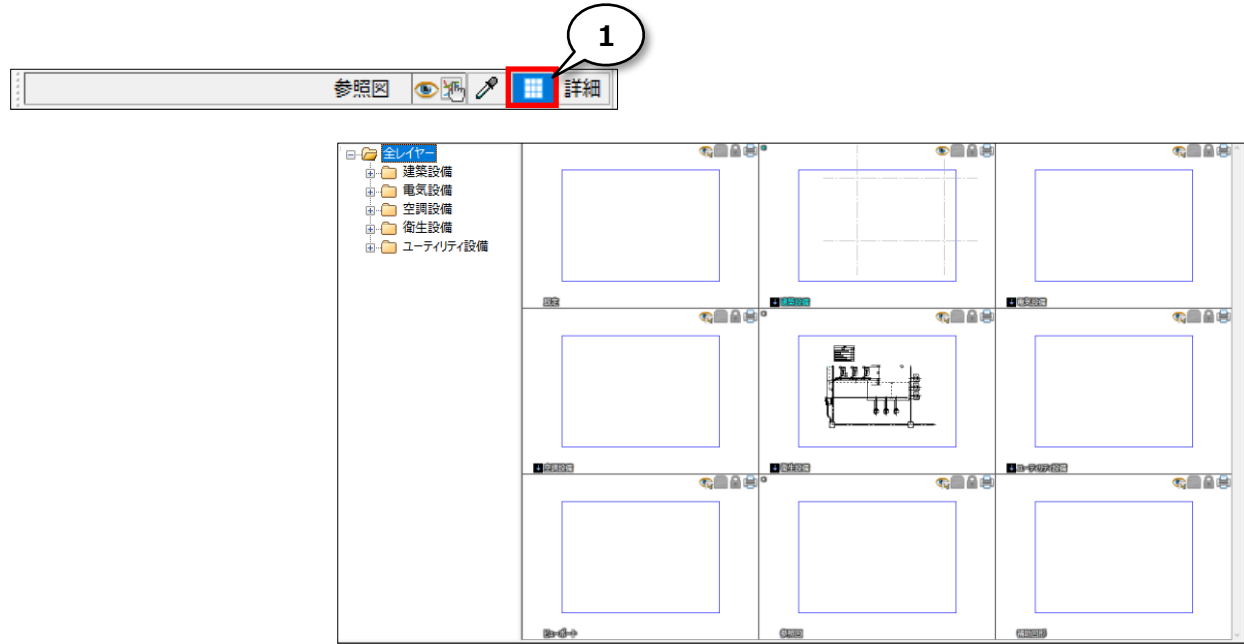
参照ファイルの表示色を指定できます。

参照ファイルを表示する高さを指定できます。(フロア図面を重ねる際は、その階のフロアレベルを入力します。)

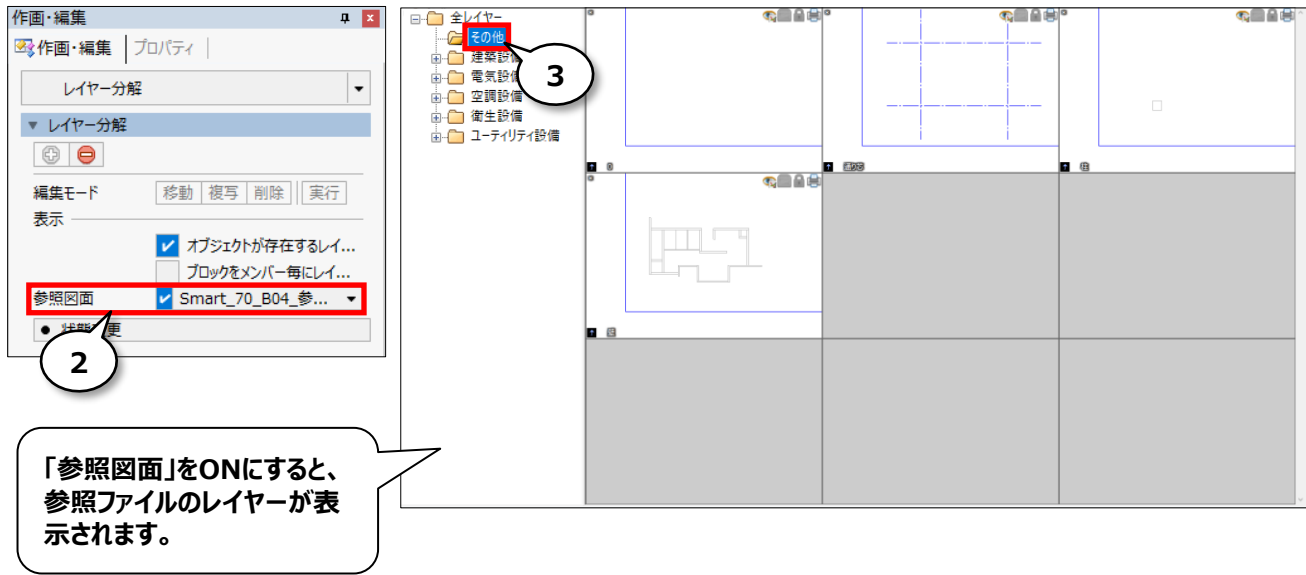
2. レイヤー分解して参照ファイルのレイヤー状態を確認しましょう

➤ 図面のレイヤー分解

レイヤーパネルの「レイヤー分解」ボタンをクリックします。



「参照図面」をONにし、「その他」フォルダをクリックします。



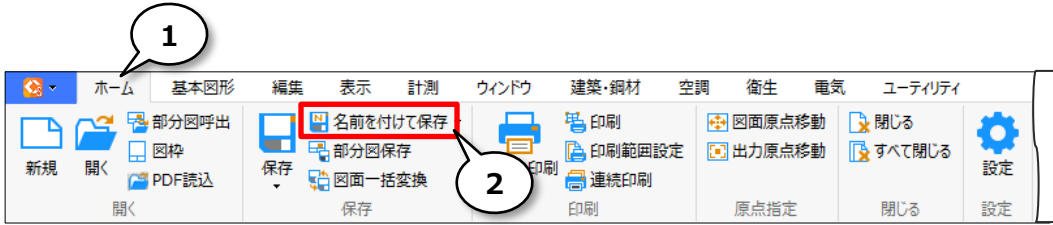
レイヤーパネルの「レイヤー分解」ボタンをクリックします。



3. 図面を保存しましょう

➤ 名前を付けて保存する

リボンの「ホーム」から「名前を付けて保存」をクリックします。



ファイル名を入力し、「保存」をクリックします。



